

# ブリジンは

Bridgin'

2005  
PART 2

コミュニティづくりのために、人と人、グループとグループ、地域と地域、これらが橋渡しされること、リッジされることで、新しい価値観を見いだし創っていくこと、これが現代のソーシャルキャピタルです。

ボランティア・NPO情報誌

ブリジン (Bridgin')  
Bridge:橋を架ける  
困難を克服する  
Bridging=Bridgin'(進行形)



障害者と子どもたちとの交流事業



ブリジン登場

熊谷 啓子 (八戸市)

## 弱者のための新発想を実践

NPO法人自立支援センターフィフティの常務理事であり、同法人が運営する通所介護施設「でてこいセンターふおれすと」の所長でもある熊谷啓子さんは、障害者福祉や高齢者福祉に対して、自由な発想によるさまざまな提案・実践をしてきた行動力の持ち主です。既存の制度にとらわれることなく、障害を持つ人や高齢者にとってどんな支援が必要とされているかを、福祉先進国への研修旅行や、バリアフリーの街づくり活動などを通して学び、実践してきました。

### ◆弱者へのあたたかい目で

ミニコミ誌の編集からスタートし、単行本や「八戸市議会史」などの地方史関係の編集を経て、八戸地域社会研究会の事務局長時代に八戸市で「われら人間コンサート」を開催し、福祉関係者とのつながりを持つようになりました。その後、障害を持つ人たちとの海外研修旅行に参加し、その体験からNPOの前身である「八戸障害者自立の会」を現・理事長と共に立ち上げました。



「バリアフリーの街づくり」を会の活動の柱として、ショッピングセンターやホテルなどの新築の公共的建造物に対して個別にバリアフリー化を訴えるとともに、一方では行政に対して「福祉の街づくり整備指針」の策定を求めて陳情書を提出するなど活動を展開してきました。活動資金は企業財団などからの助成金を活用し、理想を具体的な形にしていくことを常に考えるという行動力の持ち主です。

### ◆ショッピングセンターをバリアフリーに

1994年、イオン下田SCの開設にともない、事業者からバリアフリーに対するアドバイスを求められました。熊谷さんはいろいろな障害を持つ人たちやお年寄り、赤ちゃんのいるお母さんたちとの懇談会を提案、そこで出た



要望や意見が建物に反映され、イオン下田SCは、「ハートビル法」県内第一号となります。熊谷さんたちと企業の連携が実を結んだのです。

その後、SCでは熊谷さんたちと協働で福祉関連のさまざまなイベントを企画し、「福祉なんでも相談室」や、子供図書の貸し出しや赤ちゃんルームを兼ねた「サポートセンターふおれすと」の開設、さらに福祉施設からの団体客の買い物介助を行うガイドヘルパーの派遣などを行ってきました。そんな活動の積み重ねが、デイサービスセンターの開設につながったのです。

#### ◆SCという街が日常生活を再体験

「でてこいセンターふおれすと」では、大型ショッピングセンターの機能をフルに活用し、買い物はもちろん、映画鑑賞、レストランでの食事、美容院やクリニックの利用など、元気なころの生活と変わらない「街体験」ができます。そのことによって、生活への意欲がわき、心身状態が改善するケースも多いということです。「引きこもりがちなお年寄りに、自然に刺激を与えることができる環境」という発想は、他の分野から福祉に入ってきた熊谷さんの一味違う力量なのでしょうか。

この施設がNHK教育テレビの「福祉ネットワーク」に取り上げられたことにより、全国の他のSCにも広がりつつあります。介護の新しい方向を打ち出す一助になったように思えます。



#### インタビューからひとこと

● 藤井 一江 (ANPOS)

日常の延長としての介護が、ごく自然に行われていることの、大切さ。認知症と診断されても、個人としての、尊厳が守られることの必要性に気づかされました。熊谷さんの小柄な体のどこにこの力とアイデアが潜んでいるのか不思議です。新しい施設のことをもう考えていると聞いて、びっくりしています。この施設を見学して、安心して老後が迎えられそうです。

# 特集

## 子どもたちの未来を考える活動

「最近の子どもはキレイやすい？」  
「人間死んでも生き返るといふ子どもが2割」  
「高齢化社会になって大丈夫？」

現代の子どもたちは大変です。モノもカネも情報もそれなりに充足しているにもかかわらず、戦後生まれ団塊の世代が形にしていっていった世界の中で、不安定、不確実なベールをかぶせられたまま、子どもたちは成長しているようです。いま、次代を担う子どもたちに託せる世界が、あるいは夢があるのでしょうか。子どもたちの問題に真正面から向き合わなければなりません。子どもたちに、光を。

子どもたちの未来を思う活動をルポ



○子どもゆめ基金

国と民間が協力して、子どもの体験活動、読書活動、教育開発活動を応援し、子どもの健全育成を手助けする基金のこと。予算：680万／使途：国の機関からの受託、助成事業、大人の生涯学習、指導者養成などに使われる



NPO法人  
岩木山自然学校

中津軽郡岩木町大字常盤野字黒森12-5 TEL 0172-83-2670

自然を学びの場として  
問題解決に向かうことのできる人をつくる



『環境教育を通して世の中を変えたい』岩木山自然学校は、校長・高田敏幸さんのそんな思いから1997年に青森県で最初の自然学校として設立されました。それ以前から岩木山麓でペンションを営み、日本環境フォーラムなどにも所属していた高田さんが、青森県の豊かな自然環境を学びの場としたいと考えたことがきっかけでした。

自然学校の活動は、子どもの体験教育、大人や障害者の自然体験、自然環境調査や研究による環境保全、地域の自然を活かした地域活性化に係る事業、と様々です。

夏休みには子どもの自然体験教室を多く開催。中でも力が入ったのが、8泊9日で行なった「子どもゆめ基金」助成事業の「青森県横断子ども冒険キャンプ」でした。青森は太平洋の日の出と日本海の日の入りが両方見られる本州唯一の県です。登山やカヌーなど様々な自然体験をしながら横断し、どちらの感動も味わってしまうという青森ならではの冒険キャンプで、県外からも多くの子どもたちが参加しました。大きな事業なだけに力が入ったものの、終わってみれば大成功。

参加者からの感動と喜びの声もたくさんあり、来年の実施も検討しています。「今の子どもたちは迫るものがないと動けないように感じます。だから、いろいろな経験をして自分たちがどうすれば良いか理解や判断ができるようになってほしいですね。目指すのは持続可能な社会づくりです。」と高田さんです。



ひばりの会

青森市浜田1丁目9-1 TEL 017-739-0586

ダウン症児をもつ親同士の  
和気あいあいの結束



ダウン症児は、突然変異による染色体異常が原因で生まれます。誰にでもダウン症の子どもをもつ可能性があるのに、医療機関でさえ正確な理解をもたず、誤りの情報に振り回されることが多いのが現状です。

ダウン症の子どもを抱えて悩み、状況を話し合っていた数人のお母さんたちから「ひばりの会」ははじまりました。ダウン症を知らされて途方に暮れているお母さんに正しい知識を教え、情報を共有して助け合う。そんな「ひばりの会」は発足から15年以上が経ち、現在はダウン症児をもつ23名の会員と約27名の賛助メンバーが活動しています。

会に助けられたという会員たちは、「賛助メンバーの中には保健師などもあるので、ダウン症児が生まれたと情報があれば会員が訪ねて行って話を聞くこともあります」と連携もバッチリ。会報などでのいち早い情報交換と月2回の音楽療法、年2回の親子レクリエーション、12月のクリスマス会などを和気あいあいと楽しんでいます。

「ダウン症児は表情が豊かで人懐こく、スピードは遅いけれど教えれば確実に覚えていきます。学校でも普通学級で健常児と一緒に学ぶことができれば、どちらにとっても良い刺激となるのでは。また、養護学校に絵画コンクールなどの連絡が入りづらいため応募すらできず、豊かな感受性をなかなか発揮する場がない、というのも問題です。ダウン症の子どもたちに同情するのではなく、普通に接してください。」と代表の風晴さん。



### ○たすけ

鬼ごっこの一つ。助け鬼ともいう。鬼に捕まえられた味方を、タッチで助ける遊び。

### ○読み聞かせ

子どもに本を、声を出して呼んで聞かせること。読むだけではなく音を聞かせたり絵を見せながら話を聞かせることで、子どもたちが本に興味を持ち、読書って楽しいんだという関心を高めることができる。



## たすけっこの会

青森市金沢4-19-19 TEL 017-775-3403

### 鬼ごっこの「たすけ」が 現代っ子が自分の身を守るための知恵



2001年6月の大阪教育大学附属池田小学校事件をはじめ、このところ大人の世界には醜い事件がいやというほど相次いでいます。本当は子どもの手本になるのが大人のはず……。そんなやり切れない思いから1人の市民が立ち上がり、2001年7月から防犯用の「呼び笛」を県内の小学校に配りはじめました。その笛は「たすけっ呼」と名づけられています。

当初、笛の準備のために寄付を求めれば「物乞い」呼ばわりされ、「自分が助けてもらいたいじゃ」と皮肉られもしましたが、「子どもを守るんだ!」という思いに共鳴した賛同者が少しずつ集まり、助け合いの輪が広がっていきました。

やがて、自分が守られた「たすけっ呼」で、今度は自分たちが小学生を守ろうと、中学生たちが笛のシール貼りや袋詰めをボランティアで手伝うようになります。

2005年2月、たくさんの人の気持ちがこめられた笛を中学生代表が佐々木青森市長に手渡した時、市長は「この善意の積み重ねが何かの形で犯罪の抑止につながっていくのでは」と声をかけました。そのわずか2ヶ月後、見知らぬ男に連れ去られかけた小学校1年生の男の子が力強く笛を吹き、自分で身を守ることができたのです。

「思いやる気持ちを感じた子は、決して加害者になりません。『たすけっこの会』が早くなくなってほしい、というのが本音ですね」という「たすけっ呼」の生みの親・奈良哲紀さんです。



## 車力村読書サークル

つがる市富港町字鴨野1-10 TEL 0173-56-3716

### 本の世界を耳から伝えて 良い本とめぐり合う手助けを



平成9年、10名の母親たちにより、旧車力村で子どもたちに読み聞かせをするサークルが結成されました。メンバーは、育児サークルがなかった村内で子育て情報を交換しあっていた仲間たち。本を読んで聞かせることで子どもたちが良い本にめぐり合うお手伝いをしています。

サークルでは、毎年テーマを設けて活動しています。今年は「戦後60年」で、楽しい内容の本の中に戦争の話も取り入れると決めました。米倉 齊加年『大人になれなかった弟たちに』という本の話に思った以上にしっかり耳を傾けている子どもたちの様子から、「受け止める力が想像以上に大きいようです」と代表の北澤由美子さんは微笑みます。



読み聞かせの会を続けるうちに村内のみならず近隣町村から依頼されることも多くなり、研修会へ参加したり他サークルの活動を見に行ったりという努力を欠かしません。また、地区公民館へ図書室で購入する図書のアドバイスをしたり、これからサークルを立ち上げようという団体にとってもすっきり頼りの存在となりました。

お手製の紙芝居や、きれいな音やきもちの良い音を使っての読み聞かせで、子どもたちが本を好きになり、身近に感じ、好きな本を選べるようになってくれることが目標。「子どもたちの世界が広がっていくお手伝いができることはとても幸せ。読み聞かせの輪が県内にもっと広がればと思っています」

○支援費制度  
障害者が自らサービスを選択でき、契約によってサービスを利用する仕組みのこと。利用者の立場に立ったサービスを提供することを目的としています。平成15年開始。

○児童デイサービス  
障害のある子どもが、遊びや運動などのプログラムを通して日常生活における基本的動作を学び発達していくことの支援や、集団生活への適応訓練をすること



## 青森県BBS連盟

青森市長島1-3-25青森法務総合庁舎 青森保護観察所内TEL 017-776-6422

### 少年たちが自分を信じられるように 同じ目の高さで成長の手助けを



BBS運動とは「Big Brothers and Sisters」の略称です。「兄」や「姉」のような身近な存在として、非行を犯した少年たちと“同じ目の高さ”で接しながら、彼らが健やかに成長するための手助けをしています。アメリカがさがりかけて、日本は1947年から活動がおこり現在は約6,000人が参加、青森県では約50名の会員が各地区でボランティアをしています。

BBSの主な活動は、保護観察を受けている少年の話し相手になる「ともだち活動」。さらに、グループで何かを楽しむことで共感を得る「グループワーク」や社会の一員として奉仕活動などを行うことで誰かの役に立つ喜びを分かち合う「社会活動への参加協力」、また非行を起こさせない社会環境づくり、BBS会員の研修などを行っています。

運動が始まってから58年の月日が流れ、子どもたちの事情は複雑化、犯罪は粗悪化しました。自分を信じられない、自分自身がどうすればいいかわからない、という大きく強い不安がその根底にあるのかもしれない。社会の不安定さを敏感に感じ取り、揺れ動く子どもたちが健全に育つためには、一番身近な家族や友だちとの絆が大切です。「自分を信じて、

やればできるということを知ってほしい」と青森県BBS連盟の向谷地会長は言います。「若い会員が増えてほしいですね。学生のみなさん、気軽に参加してみてください」



NPO法人

## レスパイトハウス“WA”

青森市中央4-7-8 TEL : 017-723-1565

### 障害のある子どもも家族も ホッとできる場所



レスパイトとは英語で「ひとやすみ」「休憩」を意味する言葉。障害児をもつ家族が休息できるよう、子どもを日中一時預かるサービスです。日常の世話に追われて親が疲れてしまうと、子どもはそれを敏感に感じ取り、みんなが辛くなってしまいます。このような状況を改善するため、平成14年、青森市では最初となるレスパイトサービスをスタート。

レスパイトを利用した家族からは、久しぶりの同窓会やコンサートなどを楽しめたという声が聞こえました。

もう一つの活動としては、国の支援費事業として、知的障害のある子どもたちを支援指導するデイサービスがあります。デイサービスでは、今その子がどのような支援を必要としているかを話し合っカリキュラムをつくり、それに沿った支援事業を行ないます。子どもたちが成長した時、家族と一緒にそれぞれの地域社会の中で、暮らしていけるようになります。その成長過程の一部を担うサービスです。

たとえ障害があっても子どもの可能性の芽はたくさんあるものですが、家族はそれに気づかないこともあり、学校教育の場でも充分とはいえません。

「できなかった事ができるようになることで、子どもに自信が付き変わっていきます。子どもが変わると親も変わってきて一生懸命に努力をします。子どもたちの成長と、親御さんの喜びの声が私たちスタッフが明日へ向かう元気の源です」と、理事長の山口富美子さんは語ります。





○地産地消  
地元でつくられたものを地元で消費すること。食に対する安全・安心志向から「顔が見える関係」として関心が高まっています。

## 地元の豊かな恵みをおすそわけ 白神地産地消の会

【深浦町岩崎】



自然豊かで海の幸にも山の幸にも恵まれている青森県。当然、旅行者の食に対する期待は高く、地元の食材を活かした郷土料理づくりも熱心に取り組まれてきました。しかし、そのような郷土料理がホテルや旅館、飲食店などで食べられるようになっておらず、「食」が観光の主役になりきれていないというのが課題でした。そこで、県の観光推進課は旧岩崎村地区をモデル地区とし、「食」を観光の誘客因子としてもっと押し出す作戦を立てました。

平成16年10月「白神山地地産地消の会」として地元の婦人部などから集ったメンバーは14名。地元の食材を地元の味付けで料理する勉強を重ね、平成17年4月から本格始動、「セミナーハウス勉強館」の食事と

して供出するようになりました。

契約農家や契約漁師が運んでくる朝どれで新鮮そのものの食材を使った、ボリュームたっぷりの地元・家庭の味は大好評。「三十三湖めぐり」などのイベントにも出動し、大鍋で地元の山や海の幸をふんだんに使った鍋を振舞っています。

会のメンバーである主婦たちも、私たちのお小遣いの元！と張り切り、夢は大きく「みんなで儲けて海外旅行に行こう！」を合言葉に月一度の勉強会も続けています。「今後は若い人たちも仲間に入ってもらいたいですね。昔からの調理を伝えていくことにもなりますし、若い力を原動力に、シフトを組んでバリバリおいしい料理を作ってみなさんに食べてもらいたいですから。」と、メンバーの岩森さんから力強い言葉が飛び出します。

ただいま「白神山地地産地消の会」では「ネバネバ」を売り出し中です。中でも、ミズ、メカブ、タマピロ（ノビル）を味噌で和えた「水たたき」がおすすめ一品。会の料理は、宿泊者だけでなく、昼食のみでも申し込み可能。旧岩崎村地区は、世界遺産の白神山地や神秘的な湖、十二湖だけでなく、健康を思う主婦の力がみなぎるコミュニティです。



ボリュームたっぷりのおふくろの味

地域を元気にする

## 七百ふれあいサロン

【六戸町】



上北郡六戸町の七百地区公民館で、女性たちに交じって男性たちが調理場に立って料理作りの腕を振っています。この日は月に一度「七百ふれあいサロン」が開催される日なのです。

このサロンというのは、町の社会福祉協議会が地域交流の意味も含め「健康で元気に長生きしよう」との主旨で、1997年（平成9）から行っているものです。六戸町で定期的に行われているのは、七百地区を含め5カ所ほど。

七百町内会では参加費300円とコメ1合を持ち寄って、「ふれあいサロン」をみんなが楽しんでいます。この日の昼食の献立は、南部地方ならではの「かますもちと馬肉鍋」をメインにした郷土料理。かますもちは土地によってはきんかもちとも呼ばれています。

「昔はよく食べていたもんだったよ」と話すおばあちゃんから手ほどきを受ける若いお母さんたち。「私は見るのも食べるのも初めて」「ヘー、上手なものですね」と調理場は賑やかです。隣では男性たちが馬肉鍋作りの真っ最中。

「サロンが開かれる日をみんな楽しみにしているんです。スポーツをしたり、小学校の子供たちと一緒に、学校で収穫した野菜を使って料理をしたりと年間のスケジュールに沿って行っているんですよ」と世話役でもあり、年間企画も立てている石井京子さん（67）。

公民館に集まったのは、約30名の町内会の人たち。準備ができるといよいよ大広間で待ちに待った昼食です。

「懐かしい味だー」「うまいなあ」と口々に笑顔と笑い声は絶えせん。食事が済むと、恒例の合唱が始まります。歌詞を書いた紙が各自に配られるのですが、その中に必ず歌われるのが「**七百ふれあいサロンの歌**」。会員が作詞したものだそうで、元気が生まれてくるような歌詞なのです。その後は、駐在所のお巡りさんや保健婦さんのお話だったりと毎回様々な講師を招いての講話をみんなで聞きます。

「サロンが開かれるようになってから、地域の人たちの表情が明るくなってきました。何よりもお年寄りの人たちが元気になってきたのが嬉しいですね」と話してくれるのは、京子さんの活動を支えている夫の石井妙雄（いしいただお）さん（74）。

高齢化が大きな社会問題になっているなか、六戸町も例外ではありません。一人暮らしの老人や、夫婦だけというケースが増えているのだそうで、また、隣同士のコミュニケーションが薄れてきているといいます。「ふれあいサロン」はこうした人たちにとって、文字通りサロンの役割を果たしているのです。



○「七百ふれあいサロンの歌」

- 1 朝のあいさつ晴れやかに  
きょうは楽しいふれあい日  
じいさんばあさん手を結び  
おいしいご馳走作りましょう
- 2 固いからだをほぐしながら  
軽いスポーツやりましょう  
まぐれで高い点を取り  
ちょっと得意になりました
- 3 可愛い子供と会食し  
コマやお手玉に大はしゃぎ  
幼い昔にもどりましょう  
最後は上手な大黒舞

# ワークショップ入門

指導／水戸光宣（NPO法人コミュニティネットワークキャスト理事）

## <楽しくなければワークショップじゃない>

いまや参加型まちづくりには欠かせない「まちづくりワークショップ」。簡単に言ってしまうと、まちづくり（コミュニティデザイン）をするときに、多くの人が参加できるように開発されたデザインゲームプログラムです。さまざまな手法がありますが、ここではむしろ参加した人たちが、楽しく有意義な時間を過ごし、ワークショップの開催目的にあった成果が得られるためのプログラムづくりと運営のポイントを紹介します。

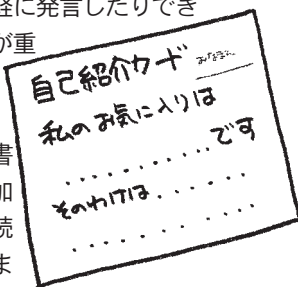
## <ワークショップは開催する時間だけがワークショップではありません。事前の準備やプログラムづくりがとても重要>

### 1. 参加者の共通理解を深めよう

ワークショップはデザインする目的（ワークショップの開催目的）に合わせ、プログラムを構成し、運営においては参加者に活動してもらわなければなりません。そのために重要なことは、参加者の共通理解を深め、同じフィールドで話し合いができるようにすることです。問題意識の共有のために、事前に準備できるものがあればお知らせしたり、レクチャーすることも必要になります。現場をみんなで見たりする時間を入れるとスムーズな話し合いができるはずですよ。

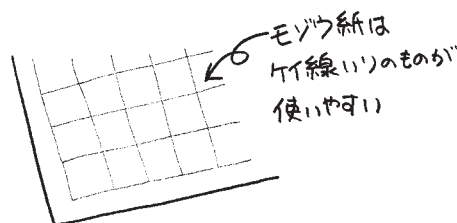
### 2. 自己紹介はワークショップの練習

ワークショップでは、自由に気軽に発言したりできる、話し合いの雰囲気を作ることが重要です。そのため、自己紹介で名前や所属だけを言うのではなく、身近なテーマで自己紹介カードを書いてもらい、それをグループの参加者に発表し話すことが、この後に続く話し合いのトレーニングになります。また他の参加者がどのような人な



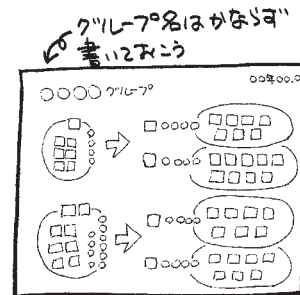
のかをイメージしたり、休み時間に話しかけたりするきっかけにもなります。時間に余裕のあるときは、簡単なゲームをしてグループのメンバーが打ち解ける雰囲気を作ることも有効です。自己紹介カードはあとでグループの成果品の模造紙に貼っておくと、どんな人が参加したのか後ですぐにわかりますし、その意味においても自己紹介は貴重な時間なのです。

### 3. ひとつの意見やアイデアはひとつの紙に

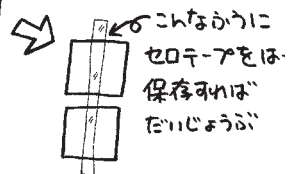


紙に書くことで、参加者の意見やアイデアが目で確認できます。付箋紙に書き込むときは、後で誰が見てもわかりやすいように、なるべ

く大きな字で簡潔に書きましょう。あとでグループングするので、ひとつの意見やアイデアは一つ



成果品はカメラで撮影してみよう  
あとでまとめるのがラクになります



の付箋紙に書きます。紙に書いて意見をまとめることによって、最後まで自分の意見が残ることも効果のひとつですが、議論が逆戻りしないようにするためにも有効です。紙に書かないで話し合いだけさせると意見やアイデアを忘れていたり、議論が進まない場合があります。

### 4. ワorkshopはビジュアルコミュニケーション

ほとんどのワークショップは、アイデアや意見を付箋紙

#### ●参加する人の年代や人数にも注意しよう

最近よく耳にするのが、ワークショップに参加するのはいいけど、字を書くのが面倒だという高齢者の方の話です。参加する人がこうした負担を感じたり、ためらったりすることがないように気を配らなければなりません。たとえば、テーブルマネージャーのほかにサブマネージャーをグループに配置し、参加者にかわって聞き取りで付箋紙に書き込むといったことも考えておきましょう。

#### ●テーブルマネージャーの役割

まちづくりワークショップでは、グループのリーダーを、テーブルマネージャーといいます。テーブルマネージャーの役割は、ファシリテーターと同じくらい重要で、グループの話し合いがうまくいくようにすることはもちろん、時間通りに目的の成果が得られるようにグループをコントロールしなければなりません。かならずワークショップの開催前に、他のテーブルマネージャーとファシリテーターが打ち合わせを行い、プログラムの内容とワークショップの成果を理解するようにしましょう。

## さまざまな意見がグルーピングされてまちづくりの指針となっていく…ワークショップの面白さ



に書き込んでグルーピングする「KJ法」を使って話し合いを進めることが多いと思

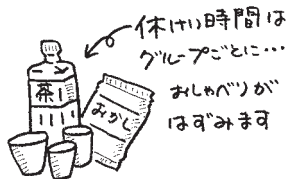


マジックは うらうりのない  
水性のものが多いようぞす  
4色以上ははいかも

います。しかし、言葉だけでまとめる、わかりにくかったり見やすさにかける場合があります。後で見ても、話し合われた内容がすぐわかるように工夫し、マジックの太さや色を変えたり、図形やイラストを上手に使い、見た目も楽しい成果品を心がけましょう。

### 5. グループの発表は全員で

ワークショップでは必ず、グループの成果を発表する機会をつくりましょう。他のグループがどんな話し合いをしたのかを聞くことも大事なことです。同じテーマで話していても、違う結論がでたり、別なアプローチから成果がでたりします。また、自分たちがどんな話し合いをしたのかを確認するいい機会です。よくテ



休みの時間は  
グループごとに…  
おしゃべりが  
はかまます

ブルマネージャーが代表で発表したりしますが、なるべく全員がみんなの前で話すようにしてあげましょう。ワークショップは、コミュニケーション能力を上げるトレーニングの場でもあるのです。時間に余裕のあるときは、グループ発表のあと全員でディスカッションする場面を持ちましょう。参加者全員が、各グループの成果品に“よくできたシール”を貼ったりする簡単なアンケートも発言を喚起させる手段です。

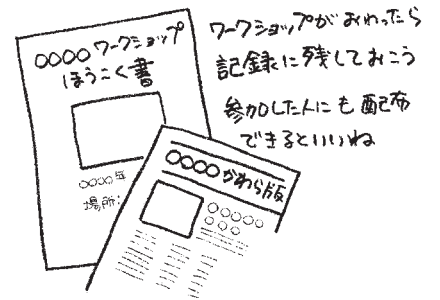
### 6. ファシリテーショングラフィックに挑戦しよう

まちづくりワークショップでは、最後にファシリテーターが各グループで話し合った内容をさらにまとめて参加者に説明する場合があります。このときのまとめは「ファシリテーショングラフィック」といって、その日ワークショップで話し合われた内容を参加者が確認して理解するためのものです。「ファシリテーショングラフィック」は、わか

りやすくワークショップの目的が反映されるようにまとめられなければなりません。ワークショップの目的をきちんと考えたプログラムの構成がここで生きてくるのです。

### 7. ワorkshopは終わりじゃなくてはじまり

よくワークショップで住民の意見を反映したからいいといった話をききます。でも本当にそれでいいのでしょうか。ワークショップで発言した自分の意見やアイデアがこういった形になっていくのか、



どう反映されていくのか、こういったプロセスで事業化されていくのかを見守ることもワークショップ参加者の仕事です。企画する側も参加する側もワークショップを終わりにしないで、ここから新たな動きに結びつけるようなフォローやプログラムが必要なのです。「かわら版」「報告書」を発行したりするのはもちろんですが、そこにも、これからの展望や次につながる種が見つかるように考えましょ

### <わすれちゃいけない5つの約束>

- ① 他人の意見を批判しないでください。
- ② 必ず自分の順番がくるので、他人の意見はきちんと聞きましよう。
- ③ 他人の発表を聞きながら別なことを思いついた人は新しい付箋紙に書いて、あとでまた発表ましよう。
- ④ 楽しい雰囲気を進めてください。
- ⑤ 年齢・性別等にこだわらず、お互いに尊重して協調してください。

#### ●K J 法

川喜田二郎（文化人類学者）が考案した手法で、様々な意見やアイデアをカードや付箋紙に書き込み、類似したものを集めてグループ化し、問題解決などの手がかりを得ることを目的とする。KJ法は、川喜田二郎氏のイニシャルから名付けられている。

#### ●ファシリテーターって誰？

ワークショップファシリテーターは事前の準備から当日の運営、進行に関わる責任者です。参加者のアイデアを引き出し、確実にワークショップの目的にあった成果を導きだすため、さまざまな手法を理解し組み合わせて会議の運営をします。ワークショップを明るく楽しい雰囲気、前向きな雰囲気にも心得の一つです。

男女共同参画  
活動に参加し  
よう



### インタビュー



語る人 白井 壽美枝さん

青森市男女共同参画プラザ「カダール」館長  
青森市男女共同参画社会づくりをすすめる会会長

#### 個体差を認識できる社会へ

東京から転勤してきた平成8年、青森市でちょうど女性情報紙「アンジュール」創刊のスタッフを募集していました。もともと編集者をしていたこともあり、青森を知りたいという気持ちとポケ防止に良いかな（笑）と思って飛び込みました。それに端を発し、「男女共同参画」に関わるようになりました。

平成8年10月の「男女共同参画都市」宣言などの作成に携わるうち、ふと、私は以前からこういうことを考えていたのだなと思いがたりました。「男性だから」「女性だから」と簡単に分けてしまう社会にいて、無意識のうちに選ばれていることがあるのではないかと、どこかで感じてきたのです。

保育士、看護師などは長らく女性の仕事とされてきましたが、その分野を希望し、また適している男性もいますよね。人の個性というものは、男女差ではなく『個体差』によって生まれるものではないでしょうか。自分の力を発揮できる、能力を伸ばせる、そう感じたところへそのまま進んでゆける社会であってほしい。みんな違ってみんないい。束ねないで。そう感じてきた女性は多いのではないのでしょうか。そういう女性たちや男性たちが動き出し、「男女共同参画」の盛り上がり繋がっているのだと思います。

よく勘違いされるのですが、「男女共同参画」は「女性が優位になる」ことではありません。男女が「均等」に「対等」ということは、共に「利益を享受するし、責任も負う」ということなのです。また、人権や、男性と女性の肉体に関わる違いが、尊重される社会です。男性だけが参画するのではなく男女が参画することで、今まで見えていなかったものが見えたり、価値も変わってくるでしょう。一人ひとりが輝いて生きられる社会がいいですね。（連絡先：017-776-8800 青森市男女共同参画プラザ「カダール」）



### NPO法人 青森県男女共同参画研究所 【弘前市】

設立：平成14年

目的：行政や企業、団体そして地域とパートナーシップをとりながら、青森県での男女共同参画社会の実現を目指す。

活動：男女共同参画に関する講演会・講座開催、講演・講師活動、他団体との交流をする「事業部会」、「調査研究部会」、「研修部会」、会報の発行やホームページ運営、各種広報活動を手がける「広報部会」、例会や会員交流事業の企画・実施をする「会員交流部会」、「報告書作成部会」の6つの部会に分かれて活動している。

代表・佐藤陽子／会員数・35名

連絡先：0172-27-4988（工藤緑）



### ネットワークA・L 【青森市】

設立：平成5年

目的：性別にとらわれず、誰もが1人の人間として尊重されて生きていける社会、自己表現

### 男女共同参画が わかる本……………

NHKブックス  
男女共同参画社会をつくる



¥1,019（税込）

を目指せる社会、そんな男女共同参画社会づくりを目指している。

活動：男女共同参画の基礎講座『私のための自由時間』受講後、『日本女性会議』への派遣研修などを終了した人たちが構成。広い視点で課題をとらえて調査研究し、小冊子、講演会という形で情報発信していく。すでにDVの実態調査の報告を小冊子にまとめ、平成15年からは「生涯を通じた女性の健康」について取り組む。また、アフリカの女性教師との交流会をもち、男女共同参画についての情報や意見の交換をしている。

代表・小山内世喜子／会員数・36名  
連絡先：017-775-5313（小山内）



### はちのへ男女共同参画推進ネットワーク 【八戸市】

設立：平成12年

目的：所属団体、個人がそれぞれの活動を認め連携を図りながら、誰もが自分らしく生きることができる社会を実現する。

活動：ネットワーク内の情報交換会や研修会で知識を深め、また他団体と交流し、その活動を報告しあうことで、各会員の活動の活性化へつなげる。そのような機会を提供するのが「ネットワーク」としての大きな役割。市民や近隣市町村を対象に、男女共同参画フォーラムも年1回開催している。

代表・横川照子／会員数・団体9、個人16  
連絡先：0178-43-4185（慶長洋子）

## 混浴

文・さとうひろゆき  
(外が報研)政策推進課調整監)

「見ればまいね、見せればまいね」。

先日の東奥日報紙が、酸ヶ湯温泉の混浴を守る会の標語を紹介していた。

見ればマイネ。そういわれれば、コドケに見たくなるのが人情だ。しかし、見せればマイネとある。見せる人もいるのか！男女いずれにしる、シナモノの大小はさておき、(-\_-)・・・哀しいかな、スケベ根性は果てしなく膨らむ。

そんなことが原因ではないが、近ごろ、温泉にハマっている。温泉に限らず風呂屋でもいいのだが、近郊の浴場によく出かける。温泉なんて年寄りクサイと思っていたが、ところがどっこい！けっこう若い世代にもウケているらしい。若者がフケたのか、ボクがトシなのかはさておき、新卒の風呂屋がずいぶん増えた。実は、ウチの隣にも公共の健康浴場が数年前からある。

風呂屋の定義は、自宅から徒歩でせいぜい半径十数分の距離。温泉とは、山中に籠る覚悟で行くもの、という基本的な概念がある。街なかの銭湯も少なくなり、クルマ社会の今、「ちょっと湯サ」というのは、近所の風呂屋に行くとは限らない。

思えばガキの頃、学校と風呂屋は共にコミュニティの拠点だった気がする。

コミュニティづくりが盛んになった昭和50年代後期、いろいろな要素を備えたコミュニティセンターが建設された。そのなかに、「コミュニティセンター(銭湯)」もあった。気になるこの施設は、リサーチしないまま今に至ったが、やはり今も気になる。

くだんの「混浴を守る会三ヵ条」の第三条にこうある。

「混浴は老若男女を問わず、和を尊び大らかで豊かな入浴の姿を最高と為すべし」・・・年代を超えて、話したり語り合うコミュニケーションが希薄になっている昨今、さもありなんとする。

しかし、「見せればまいね」とワも思う。(※ことさらに)



COMSレスレ日記②

男女共同参画の時代  
岩波新書 鹿嶋敬



¥819 (税込)

北九州市立男女共同参画センター  
ジェンダー白書(2)女性と労働



¥1,890 (税込)

インパクト出版会 伊藤公雄  
「男女共同参画」が問いかけるもの



¥2,310 (税込)

文芸社 奥山和弘  
「男だてら」に「女泣き」



¥1,365 (税込)

# 市民活動 NEWS

参加しよう  
体験しよう



## NPO情報

### ●「ボランティア・NPOひろば」に アクセスを

県のボランティア・NPOの窓口的ホームページは、「ボランティア・NPOひろば」です。<http://www.pref.aomori.lg.jp/volunteer/> 青森県内のボランティア・NPOに関する情報がコンパクトにまとまっています。ぜひアクセスを。

例えば、新しいNPOの申請状況もわかります。現在申請中で、**縦覧**されているのが以下の5団体です。

#### ・かなぎ元気倶楽部（五所川原市）

地域伝統文化・芸術を活用した観光振興事業、地域経済活性化を図る

#### ・あおもりスポーツ活動推進機構

心身とも健康で明るく豊かな生活が送ることができるよう、喜びと感動に満ちたスポーツ活動の推進

#### ・M&Iコンサルティング

インターネットや各種広告媒体を通じ、青森県の観光を中心とする情報の収集、提供に関する事業等を行う

#### ・津軽雪対策センター

冬期の雪の被害やトラブルから守るための除排雪作業や雪対策を考えた住

## 環境整備事業

### ・IT支援ネットあおもり

高齢者や障害者、子供たちへコンピュータやインターネットなどの情報通信技術の習得機会を与える

如何ですか。実にバラエティに富んでいます。地域と時代にマッチしたNPOがぞくぞく誕生しているのがわかります。一度、アクセスして下さい。**(※縦覧/申請書類を誰でも自由に見ることができる仕組みになっています。NPO申請の窓口・県の県民生活政策課で申し込めば、縦覧できます)**

### ●子育て支援で頑張るNPO

毎年、『まちなかにひびく、わんぱくを育てよう』を合い言葉に「子育てフェスタ」を開催し、油川音頭で青森市油川地区の街おこしをしている「NPO法人おいでよあぶらかわ会」。今年も10月29日（土）油川市民センターで、子供ねぶた塗り絵コンテストの作品展、子供時代を語る記念セミナー、そして油川音頭の発表会と、盛りだくさんのお祭を展開します。特に塗り絵コンテストは地元の子どもたちには大うけのイベントとなっています。

## キノコ採りは？



○ 家族等に行き先、帰宅予定時間、車の駐車予定場所を連絡して出掛けましょう。

○ 慣れた山でも、決して油断しないで単独での入山はやめましょう。

○ 目先の収穫より安全が第一です。天気予報を確認し、自分の体力、体調にあった行動を心がけ、無理しないようにしましょう。

○ 迷ったなと感じたら歩き回らず、大木の陰や岩陰で風を防ぎ、火を焚くなどして救助隊の助けを待ちましょう。特に、日没後の行動は危険です。

○ 万一に備えて次のものを用意して山に入りましょう。

非常食・雨具・薬・ライター・鏡（反射光により自分の位置を知らせることができます。）携帯ラジオ・笛・発煙筒・方位磁石・携帯電話

### キノコ採り 行き先告げて 無理せずに

今年もキノコ採りが盛んになる季節となりました。入山者は山での遭難に注意しましょう。

山での遭難は、残された家族の悲劇はもちろんのこと、地域の方々にも大きな迷惑をかけることになります。キノコ採りに出掛ける方は、次のことに気をつけて安全で楽しいキノコ採りを心がけましょう。

## 県からの お知らせ



## ボランティア情報

### ●稲わら収集ボランティア出動

秋はわら焼き公害の季節。稲わらを焼く煙で景色がかすんでしまい、交通事故の原因となったり、花粉症アレルギーの人にとっては目や鼻がひどい状況になってしまうわら焼きです。

県や各市町村では、わら焼きを防止するための施策として、稲わらの堆肥化をすすめています。



青森市では、NPO団体や市民に呼びかけ、「稲わら収集事業」を展開しました。10月10日、青森市流通団地近くの田んぼに市民約40人が集まり、1町歩の田んぼで稲わら集めを実施。園芸や野菜作りを趣味にしている市民や農業法人を目指すグループなどが、5時間

汗を流しました。集めた稲わらは、袋詰めされ、「稲わらふりーでん」という幟を立てた所に集められます。この稲わらは誰でも自由にもっていけることになっています。

この「稲わらふりーでん」は、県内の市町村で展開され、わら焼き公害防止と堆肥づくりの推奨に役立てられています。

行政と農家とNPO・市民ボランティアの協働事業が始まっています。

### ●ひらかマイバスプロジェクト発進

平賀町には、いま100円バスが4系統運行されています。高齢者にとってはありがたい交通機関ですが、利用者が伸び悩み、苦境に立たされています。地域住民にもっと愛されるバスにするための施策として、まちづくり・まちおこしのツールとしてのコミュニティバスという視点で、聞き取り調査を始めました。

9月上旬、「平賀町循環バスを考える集い」を実施し、赤字バスに対する率直な意見が出されました。平賀町民にとって、「マイバス意識」が薄いという意見が多勢を占めました。

そこで、「ひらかマイバスプロジェクト推進委員会（仮称）」を開催し、地域住民のボランティア参加によるコミュニティバス運営母体を作る準備に取りかかりました。（社）青森県自動車団体連合会とNPOが協働し、平賀町住民主導によるNPOバスを走らせようという試みです。

コミュニティバスは、横浜市では「ハマちゃんバス」四日市市では「生活バスよっかいち」、京都市では「醍醐コミュニティバス」など、続々誕生しています。



ひらかマイバスプロジェクト推進委員会は、10月26日（水）午後7時より、平賀町農村環境改善センターで開催されます。平賀町民に限らず、周辺市町村の住民誰でも参加できます。あなたのアイデアがまちを面白くします。

参加の問い合わせ・申込みは、NPO法人あもりNPOサポートセンターまで。Tel 017-776-9002

## NPO出前講座

【NPO出前講座】に参加してみませんか。

新聞、テレビなどで毎日のように見聞きする「NPO」という文字

NPOって何？

NPOはどんな活動をしているの？

NPOを立ち上げたい

NPO法人化したい

という疑問に答えるNPO出前講座に参加してみませんか。

NPOに関心のある方、これからNPOを立ち上げようと考えている方など、ぜひお近くの講座にお立ち寄りください。参加は無料です。

### ■五所川原

11月6日（日）午後1時～午後4時  
五所川原市・立佞武多の館 練習室1  
五所川原市大町2-1-1



電話 0173-38-3232

### ■三沢

11月13日（日）午後1時～午後4時  
三沢市国際交流教育センター・研修室1  
三沢市大字三沢学園230-1  
電話 0176-51-1255

### ■黒石

11月20日（日）午後1時～午後4時  
黒石公民館 第1講義室  
黒石市大字内町24-1  
電話 0172-53-2188

### ■三戸

11月26日（土）午後1時～午後4時  
三戸町中央公民館 ホール  
三戸町大字川守田字関根川原55  
電話 0179-22-2186

### ■鯉ヶ沢

12月3日（土）午後1時～午後4時  
鯉ヶ沢町・日本海拠点館 会議室  
鯉ヶ沢町大字舞戸町字北禿181  
電話0173-72-5555

### ■八戸

12月10日（土）午後1時～午後4時  
八戸総合福祉会館 大会議室  
八戸市根城8-8-155  
電話0178-47-1651

※大間、弘前、十和田・むつ4会場は終了いたしました。

申込み・問合せは、特定非営利活動法人NPO推進青森会議（電話：017-774-5595、FAX：017-774-5596）までお願いします。



## 白神倶楽部

深浦町

連絡先／西津軽郡深浦町岩崎松原177-3 TEL 0173-84-5007

**目的：**白神岳避難小屋および周辺の清掃活動、登山者の安全確保対策等を推進している。  
**活動：**年5回ほど白神岳に登り、会が所有する避難小屋の補修をする。また白神の自然を守るための啓蒙活動として、白神岳で用を足す時にはガラス繊維が含まれるティッシュペーパーではなくトイレットペーパーを使うよう呼びかけたり、小屋に鍵がかからない「善意の箱」を設けて気持ちを募っている。小中学生の登山サポートでは白神の自然についてのガイドが好評。(設立：昭和61年 代表：笹森文城)



## NPO法人 おおせっからんど

八戸市

連絡先／八戸市大字新井田字丑鞍森32番地9 TEL 0178-30-1775

**目的：**環境保全活動、環境教育活動、環境保全型産業への支援の3本柱で、生物が住みやすい環境を整え、人との共生を図る。**活動：**仏沼に代表される青森県太平洋側の湿原環境の調査をし、そのデータを基に行政や社会へ提言。地域の特性を反映した環境教育の一つとして、学校や市民などの観察会ガイドもしている。また、田んぼの観察会を通して農地の環境に対する役割を学び、環境保全型農業への意識作りをする。(設立：平成15年 代表：向山 満)



## 湯の沢川渓流会

外ヶ浜町

連絡先／東津軽郡外ヶ浜町大字平館根岸字山居75 TEL 0174-25-3080

**目的：**会員相互の信頼と融和をはかりあわせて、清く美しき郷土の保全・保護につとめています。**活動：**河川改修により変わってしまった湯の沢川の環境を少しでも以前の姿に近づけるため、毎年春に河川清掃とイワナの稚魚放流を実施している。会員資格は「根岸自治区で生まれ育った者、また居住している者で郷土を愛すると自負する者」で、父親が会員として活動した後、子供が、そして現在は孫が会員という家もあるほど、根岸地区での「湯の沢川渓流会」の活動は定着している。(設立：昭和55年 代表：福井 安光)

## 助成金情報 来年度の活動費をゲットしよう

助成財団へのアクセスは、インターネット上からお願いします。電話での問い合わせは、できにくくなっています。ご了承下さい。

### ■トヨタ財団地域社会プログラム

助成元：財団法人トヨタ財団  
東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル  
37階 TEL03-3344-1701  
<http://www.toyotafounder.jp/>  
金額：本年度の助成金総額は5,500万円の予定。  
【活動助成】：1件あたりの助成金の上限は200万円。  
【成果普及助成】：(A)「活動記録の出版」1件あたりの助成金の上限は100万円程度。(B)「広域ネットワーク」1件あたりの助成金の上限は400万円。  
対象地域：全国・その他  
締切り日：2005年11月21日  
備考：グローバル化にともない空洞化や荒廃にさらされている、「くらしといのち」を支える場である「地域社会」の再構築と活性化、また、そのような再構築と活性化に取り組んでいる地域の人々や地域に根ざした活動を結

びつけるネットワークづくりを狙いとし、公募が実施されます。「活動助成」、「成果普及助成」の2つの助成分野があり、地域社会の再構築が急務で、多様な試みが活発におこなわれている全国各地における活動からの応募が期待されます。

### ■日本郵政公社年賀寄附金配分による社会貢献事業への助成金

助成元：日本郵政公社  
<http://www.post.japanpost.jp/kifu/>  
金額：1件あたり上限500万円(下限特になし)。総額約88億円(前回実績)。  
対象地域：全国・その他  
締切り日：2005年11月30日  
備考：お年玉付寄附金付年賀葉書と年賀切手により集まった寄附金が社会貢献活動を行う法人に配分されるものです。今回から、従来

の“物”への助成に加え、“活動”への助成が行われます。“活動”には福祉活動、人材育成、普及啓発、調査研究などの活動分野が含まれます。対象は、社会福祉法人、更生保護法人、民法第34条の規程に基づく法人(社団法人、財団法人)等および特定非営利活動促進法に基づく特定非営利活動法人(NPO法人)です。対象事業など、詳しくは申請要領をご覧ください。

### ■第7回明日への環境賞

助成元：朝日新聞社  
<http://www.asahi.com/shimbun/award/env/>  
金額：4件前後に、それぞれ正賞(賞杯)と副賞100万円  
対象地域：全国・その他  
締切り日：2005年10月20日  
備考：地球温暖化防止から地域ぐるみの節水



## 沖館川をきれいにする会

青森市

連絡先／青森県青森市沖館1丁目1-11 沖館市民センター TEL:017-761-4161

**目的：**沖館川をきれいにするため、関係機関への要請や住民の啓蒙活動をし、流域の遊歩道の安全確保に努め、また未水洗化家庭へ水洗化を促す。**活動：**流域の児童生徒や住民が協力して、土手の草刈り・ゴミ拾いや河川環境改善活動、河川の定期的な観察をしている。清掃活動の初回時にはゴミが山程集まったが、2年後の17年9月ではゴミ袋2袋ほどに減った。川の水質もかなり改善し、橋の下にボラやコイ、昨年はサケが2、3匹見られるなど、成果が確実に顕れてきている。(設立：平成14年 代表：石戸谷 忠夫)



## 名勝種差海岸・鮫町の自然を守る会

八戸市

連絡先／八戸市鮫町棚久保14-148 TEL 0178-39-3137

**目的：**自然に親しみながら、観察を通して多くの人に海浜植物の美しさや大切さを理解してもらい、自然環境を守ること。**活動：**種差少年自然の家を活動拠点として、盗掘やゴミ投棄などのモラル向上のために、巡回監視と自然観察指導を行っている。「自然観察指導」「親子自然観察会」「植物写真展」などを開催し、海浜植物の保護について、成果をあげている。青森県の絶滅危ぐ種指定のサクラソウも咲いているのでその保護にも力を注ぐ。植物図鑑を制作し小学校に寄贈した。(設立：平成10年 代表者：石津正廣)



## 十和田湖里山づくりの会

十和田市

連絡先／十和田市奥瀬字十和田16 TEL 0176-75-2206

**目的：**十和田湖畔休屋地区の自然環境の保全を目指し、山野草の植え込み復元活動を中心に、自然観察会を実施。**活動：**チゴユリ、ホウチャクソウ、トチバニンジンなど昔からあった山野草を種子から育て、十和田湖畔の自然に植え込み、手入れをしている。特に、土づくりもデリケートで、外来の種子が混入しないように配慮している。夏には、十和田神社辺りにヒメボタルが乱舞するので、観察会を催し好評だ。会員は20名余で、家族ぐるみの会員も。今、風よけ植物の植栽を研究中だ。(設立：平成10年 代表：森田れい子)

活動まで幅広い分野を対象とし、「先見性」「モデル性」「継続性」に富む実践活動を顕彰するものです。対象は、環境保全に貢献する実践活動(NGOや自治体などの活動、著作や映像を含む)で、日本国内での活動および、日本人または日本に本拠を置く団体による海外での活動に限ります。個人・団体は問われません。

### ■財団法人キリン福祉財団公募助成

助成元：財団法人キリン福祉財団

<http://www.kirin.co.jp/active/social/foundation/>

金額：総額2,300万円(1団体上限額：30万円)

対象地域：全国・その他

締切り日：2005年11月22日

備考：母親、乳幼児、小中高生、障害児、超世代(世代間交流)等に対する「地域における子育て支援ボランティア活動」に対し助成されるものです。対象団体は、地域福祉活動を目的とする民間団体で、4名以上のメンバーが

中心となって活動するグループです。法人格の有無は問われません。

### ■新日本友の会助成金

助成元：社会福祉法人新日本友の会

URL：<http://www.shimhon-tomonakaio.or.jp/>

金額：30万円程度～100万円(1件)

対象地域：全国・その他

締切り日：2005年11月30日

備考：身体障害者及び知的障害者の福祉に関する事業を直接営み、原則として設立後1年以上活動している団体が対象です。ただし、社会福祉協議会などの支援団体は除きます。建物、設備、什器備品等の有形固定資産の購入又は修繕にかかる経費を支援します。

### ■花王・みんなの森づくり活動助成

助成元：財団法人都市緑化基金

URL：<http://www.urban-green.or.jp/>

金額：【プロジェクト助成】：1団体あたりの助成金は、100万円を上限とし、30件程度

の助成を予定。【スタートアップ助成】：1団体あたりの初年度の助成金は、30万円(3年間で総額100万円を助成)を上限とし、5件程度の助成を予定。

対象地域：全国・その他

締切り日：2005年10月31日

備考：既に緑を守り育てる活動(森づくりの活動)に取り組んでいる団体を対象とした「プロジェクト助成」とこれから緑を守り育てる活動(森づくりの活動)に取り組もうとする団体や設立後1年未満の森づくりの活動に取り組んでいる団体を対象とした「スタートアップ助成」の2部門があります。「スタートアップ助成」は、森づくりの活動を3年以上継続する必要があるが、2年目、3年目に別途提出する活動実施計画書に基づき、助成決定(2年目の助成金は、1年目の助成決定金額の2倍の金額を上限とする)されます。

※まだまだたくさんありますので、本編集部までお問い合わせ下さい。

# [ご近所の元気]

(ソーシャルキャピタル)

## 事始め 2

「ソーシャル・キャピタル」、なじみの薄いことばですが、2003年、**内閣府国民生活局**が発表した「**豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて**」という調査報告書で、日本におけるソーシャル・キャピタルのあり方を探っています。市民活動を考えるためにソーシャルキャピタルについて知っておきたいと思います。

### ■ボランティア・NPO組織における

#### S.C.の中身

前号では、「ソーシャル・キャピタル」(以下、S.C.)とは何か、ということを考えていきました。S.C.はご近所の元気、つまり自発的な市民活動や地域コミュニティにおける活動が活力ある地域、安全・安心な地域をつくるということがわかりました。

S.C.について、宮田加久子は「きずなをつなぐメディア」という本の中で、S.C.を2つの視点からまとめています。

一つは、S.C.を集団や地域、国という広範囲の人々の間に帰属する公共財と考える集合的視点、もう一つは個人間や組織間に蓄積され特定の人々が活用できる資源と捉えるソーシャル・ネットワーク論と呼ばれるものです。

つまり、社会を全体的に広い視点で捉えるS.C.と、個別の特定の組織や集団における狭い視点で捉えるS.C.という2つの視点が存在しているのです。

多岐にわたるS.C.の中身について理解するために、今号では特にボランティア・NPO活動にとって重要な前者の考え方に絞って、広い視点で見たS.C.の中身に注目します。

#### ■S.C.の中身は、「より広範囲に拡大していく信頼」

例えば、市民が積極的にボランティア・NPO活動に携わり、地域を活性化させていこうという気持が強い地域においては、より良い社会をつくっていこ



うという住民相互の「信頼」関係が生まれ、蓄積されていきます。この「信頼」の蓄積により、行政機関が市民の動きに注目し、耳を傾けるようになり、人は自分の利益ではなく他人の利益を求めて行動するようになったりするので。

よい良い社会をつくろうという「信頼」が蓄積されると、そのS.C.を活用することで社会関係の中で人々の利得を得るための、協調とお互いの調整が促進されるのです。

ただ一口に「信頼」といっても理解するのは難しいことですが、S.C.の中身の一つとして「血縁関係を越えた、広い人間関係の中でつくられた信頼」が考えられます。S.C.が蓄積されればされるほど、社会全体に対する信頼がつけられ、経済的にも政治的にも地域が成長していくことにつながるのです。

#### ■S.C.は「資本」です

S.C.は積み重ねが大切であり、消費するとなくなってしまうものではなく、適切な投資(市民活動)によって、しかるべき配当(より良い地域社会)が期待されます。

S.C.が豊かな社会では、従来の地域社会や企業におけるネットワークでは解決できなかった問題に対して、ボランティア・市民活動・NPOが取り組み、解決されることが期待されます。また、住民相互の信頼が強い地域では、住民の精神的・身体的健康度を高め、生活満足度を高めることにつながります。また、犯罪の抑制、子どもの逸脱行動を防ぐこともできるのです。

以上のことから、S.C.は「資本である」ということができ、その中身についての理解を深めることができると思います。

### 編集後記

◎「ブリジン」2号をお届けします。近ごろ、新聞の地域版をみると、ボランティアの要素を含んだニュースがとて多いことに気がかされます。町内会活動、学校行事、農漁業のパネルディスカッション、まちおこし事業などなど。当然、NPOの文字もとて多く見られるようになりました。

◎ボランティア活動が市民の中に確実に浸透してきたことがわかります。有償であれ無償であれ、社会貢献、あるいは自己実現というボランティア精神が、混迷する社会の中で輝き始めているように思います。

◎しかし、ボランティアという美名のもとに、市民を低コスト労働力のみで使おうという風潮も一方で起こっています。NPO活動(事業)にとって、ボランティアスタッフは貴重なチカラです。ボランティアスタッフが一つの事業に取り組み時、それが社会的にそして自分にとってどんな意義があるのか、それを反芻していただいて活動に参加していただくことが最も大切なことではないでしょうか。

◎2007年、団塊の世代が定年を迎えます。まだまだ活躍できる能力を残しているはずですが、ぜひ、市民活動やNPO事業に取り組んでいただければと思います。

◎「ブリジン」への情報提供をお願い致します。事業予定、会報、随想、意見、何でも結構です。編集のお手伝いスタッフも探しています。017-776-9002まで。



発行 ●青森県環境生活部県民生活政策課  
編集 ●NPO法人  
あomorいNPOサポートセンター  
編集協力 ●NPO法人NPO推進青森会議  
発行日 ●2005年10月15日  
本冊子は、1万部発行・1部単価税込56円10銭で制作しています。